

平成26年度 授業づくり拠点校における実践事例

指導者 木原 剛柔

I はじめに

本校では「誰もが『わかる・できる』授業づくり」を研究テーマに掲げている。誰もが積極的に授業に参加し、学習内容をしっかり理解する。そうした授業づくりをめざしている。そのために、以下の点について留意している。

- ・単元を通して問題解決的な構成をすること。
- ・誰もが参加しやすい課題を設定すること。
- ・本質をついた課題を設定すること。
- ・誰もが楽しく参加できる工夫（導入・提示など）をすること。
- ・個別に配慮が必要な児童をみとり、具体的な指導方法を考えること。
- ・学習内容を明確にし、授業のねらいを焦点化すること。

これらの留意事項にしたがって単元を構成している。誰もが楽しく授業に参加し、学習内容を理解・定着させていくことがテーマである。こうした研究のテーマを基本にし、日々の単元・授業づくりを行っている。誰もが学習内容を把握し、定着させることで、それらが活用するための力として発揮されると考えている。

II 活用力向上について

本単元では、活用力について『課題について思考し話し合っ得た内容を自分なりに生かして表現すること』と考えて単元を構成した。子どもたちが課題について考え、話し合っ学習内容を理解する。そして、学んだ内容を表現に生かしていく。そうした過程を活用ととらえている。

そのために、本単元では、『単元を貫く問いの意識』をもたせることをねらった。単元を貫く問いの意識とは、単元全体を通して考えるべき課題であり、それを追究することで学習内容を理解、定着させることができる問いである。今回でいえば、「文章の書き方の工夫と効果」である。どうすれば自分の考えがより伝わるのか、そのために工夫すべきことは何か。教材文「平和のとりでを築く」を読み進める中で学んでいくこととした。

単元構成は、第1次において単元を貫く問い意識もたせる。第2次において「平和のとりでを築く」の工夫を読み取る。第3次では、学んだ工夫を生かして自分の文章を書くことを設定した。第2次で学んだ内容を活用して第3次に生かす。ここで活用する力を高めていきたいと考えた。また、第2次の各時間において、学んだ内容を自分の力でまとめる活動を設定する。教師がまとめるのではなく、自分の力でまとめていくことで学習内容の定着を図る。さらに、学習内容が一人ひとりに定着することで活用するための力となると考えられる。

活用力は本単元のみで育まれるものではない。日々の授業の中でこそ育まれていく。そのためには、日ごろから思考し話し合い、自分の力で学習内容を獲得していくことが欠かせない。そうして獲得したものが、活用する力として発揮される。それらを意識した単元を考え実践した。

Ⅲ 国語科学習指導案

場 所 6年3組 教室

指導者 木原 剛 柔

1 単元

筆者の工夫を読み取ろう 「平和のとりでを築く」(光村 6年)

2 単元について

本学級の児童は、国語科に苦手意識をもっている児童が少なくない。どちらかといえば、物語的文章を好み、説明的文章の学習はあまり好きではないと答える児童が多い。全国学力状況調査においては、国語A、国語Bともに全国平均を若干上回っている。平均だけを見ると、国語科を得意としたクラスのようにも見える。しかし、文章全体を読み取って情報を整理し、自分の考えを上手く表現して高得点をとれる児童と、情報の読み取りと整理に時間がかかりすぎる児童が混在している。情報を読み取る方法の習得と情報整理、発信の指導に課題がある。また、児童は1学期までに「感情」「生き物はつながりの中に」といった説明的文章を学習している。ここでは、文章全体をとらえて読み、文章の型や要旨のとらえ方について学習した。形式段落や意味段落ごとの内容を読み取り、まとめや意見の段落とつなげて読み、要旨についてとらえてきた。段落を意識して読んだり、段落やまとめと関連付けながら読んだりしようとする姿が見られるようになった。文章全体を見渡しながら段落同士の相互関係や要旨をとらえたり、筆者の思いを意識しながら読み取ったりできるように学習を展開していきたい。

本教材「平和のとりでを築く」は、教科書の構成では自分の考えをつくり意見文を書くための資料扱いである。しかし、筆者の意見を伝えるための工夫が様々にこらしてあり、説明的文章の学習材として十分な教材であると考えられる。本教材は、新聞記者として原爆被害に関わった記者であり国際平和文化センター理事長を務めた大牟田氏が書いた文章である。本文は、初め(①段落)中(中1②～⑤段落 中2⑥～⑨段落 中3⑩段落)終わり(まとめ⑪段落 意見⑫⑬段落)で構成された尾括型の文章である。しかし、①段落に意見と同じ内容の一文が存在し、双括型の文章とも受け取れる。初めと終わりでは、筆者の感想が書かれており、読み手に筆者と同じ感情をもたせるような工夫がされている。中は編年体で事実のみが述べられており、原爆ドームがたどった歴史を受け取りやすい。⑩段落では、世界遺産の説明がされている。⑨段落までは日本国内だけの運動だったが、世界遺産認定の事実と未来に向けて大切に保存するという内容を挿し込むことで、⑪段落の世界の人々の平和を求める気持ちへとつなげている。文章は全体的に「原爆ドーム」を中心に述べられ、原爆の被害と保存を求める人々の気持ちが読み取れる。だが、終わりでは、二つの意見が述べられている。核兵器不要と戦争反対である。一見すると、核兵器不要と廃絶を訴えた文章のように思える。しかし、それだけにはとどまらない。筆者は原爆ドームのたどった年月や被害、保存を求める気持ち、世界遺産登録までを書くことを通じて、その元となる戦争に反対している。つまり、筆者は、戦争に反対し平和を求めることを主張しているのだ。それは①段落の「原爆ドームが、平和を築き、戦争をいましめるための建造物」という一文や題名にも表れている。逆に言えば、新聞記者として、また、国際平和文化センター理事長として原爆に関わった筆者の思いや経験が、「原爆ドーム」を目立たせている。ここに筆者の原爆ドームへの思い入れが表れていると言えるだろう。このように、筆者は様々な工夫を以て内容と意見を伝えようとしている。こうした工夫を読み取りその効果を考えることができる教材であると考えられる。

指導にあたっては、文章全体を意識しながら段落同士の相互関係などの段落構成、まとめや意見とのつながりに注意して読み取り、筆者の説明の工夫とその効果が明らかになるようにしていきたい。そのために、以下の点に留意する。

- ・ つながりや関係を意識しながら読み取ることができるようにするために、段落ごとの精細な読み取りではなく、文章全体や段落同士のつながりを意識できるような大きな課題、文章全体にかかわる問いを用意する。
- ・ キーセンテンスやキーワード、教師作成の文章などを提示し、視覚的に課題を把握し共有することができるようにする。
- ・ 課題を問いの形で示し、授業の最後に自分なりの答えを書くことで学習内容を振り返ることができるようにする。
- ・ 工夫とその効果という観点をもって学習に臨むことができるよう、意見の文を最初に共有し、「それを明確に伝えるための筆者の工夫」を課題として学習を展開していくようにする。
- ・ 学習した内容を生かしてまとめ表現するために、筆者の工夫やその効果について評価文を書く活動を設定する。

3 単元目標

- ◎ 筆者の書き方の工夫やその効果が分かり、最後の評価文に表現することができる。
- 課題にそって、筆者の工夫や効果を意識しながら読み取ろうとしている。

4 単元計画・評価計画（全9時間）

次	時	学習活動	子どもの意識の流れ	「わかる・できる」学びを創る支援
第一次 「学習課題をつくらう」	2時間	○でたらめな文章を読み、文章の工夫について話し合い、課題をつくる。 ・書き方の工夫の観点 ・学習課題 ○全文を通読し、筆者の意見の伝え方について感想を書く。 ・筆者の書き方の工夫 ・大まかな内容	・この文章じゃあ、言いたいことが伝わらない。とても分かりにくい。 ・どう工夫したら言いたいことが伝わるのかな。 ・この筆者は、思いを伝えるために、どんな工夫をしているのだろう。	・伝えたいことを的確に伝える工夫について考えるために、意見と感想、時間の順序、初め・中・終わり、題名と内容がバラバラの文章を提示する。 ・考えた内容を共有できるよう、観点を短冊に書いて掲示する。 ・大まかな内容を把握できるように、家庭学習等で音読の練習に取り組みさせる。 ・読み取りだけでなく工夫やその効果について考えが向くよう、初めに筆者の意見について見通しをもたせる。
第二次	5時間	○中心段落、中心文について話し合い、筆者の意見を読み取る。 ・筆者の意見 ・文章の型	・終わりに筆者の意見が書かれているよ。尾括型の文章だね。 ・筆者は核兵器のことに言いたいのかな。	・話し合いやすくするために、筆者が一番伝えたい段落を選択させる。 ・選択しやすくするために、既習の文章の型を想起させる。

<p>「筆者の工夫とその効果について考えよう」</p>	<p>本時 (5/5)</p>	<p>○文章構成について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段落相互の関係 ・意見と事例の関係 <p>○「原爆ドーム」の呼称の変化について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の見方, 考え方 ・意見の強調 <p>○⑩段落の効果について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見の強調 ・筆者の工夫 <p>○要旨について話し合う。(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要旨 ・書き方の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・初め・中・終わりに分けてみよう。中はまだいくつかに分けられるね。 ・それぞれどんな内容が書かれているのかな。 <ul style="list-style-type: none"> ・原爆ドームを言い換えている言葉があるよ。 ・言い換えると筆者の言いたいことがより強く伝わってくるね。 <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産について説明すると, どんな効果があるだろう。 ・日本だけじゃなく, 世界の人々が平和を求めていることが分かるね。 <ul style="list-style-type: none"> ・要旨にふさわしいのはどれかな。 ・題名や①段落を見ると平和のことを一番訴えていることがわかるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の内容をつかみやすくするよう, 段落番号をつかって文章全体を板書する。 ・それぞれの段落を短くまとめ, それぞれの段落を板書上で関係付けていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・全員が楽しく参加できるよう「原爆ドーム=□=□」を提示し, 話し合わせる。 ・強調の効果に気づきやすくするため, 建物と言い換えた文と比較して話し合わせる。 ・⑩段落だけが, 原爆ドームが主役ではないことに気づかせるため, 段落の主語や編年体の文章であることについて考えさせる。 ・⑩段落の効果に気づきやすくするため, 世界遺産が無い場合の文を提示し, 比べて考えさせるようにする。 ・話し合いの観点を明確にするため, 教師作成の文を提示する。 ・要旨についてははっきりさせるため, ①段落や題名に注目するように促す。 ・自分なりの要旨を書くことで, 学習の振り返りとまとめにする。
<p>第三次 「筆者の工夫をまとめて交流しよう」</p>	<p>2時間</p>	<p>○筆者の書き方の工夫に対する評価文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き方の工夫と効果 <p>○評価文を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの見方 ・書き方の工夫と効果 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者は文章の型や段落構成, 題名について工夫していたね。まとめて描いてみよう。 ・友だちはどんな風に評価したのかな。筆者の工夫をしっかりと書けているかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫や効果についてしっかりと書くことができるよう, 初めに振り返りをしっかりする。 ・書き方に困る児童の手助けとなるよう, 時間を区切って友だちのノートを見て回る時間を設定する。 ・全員の評価文について知ることができるよう, 友だちのノートを見る時間をとる。 ・工夫やその効果をきちんとまとめられている児童を紹介させ, その児童に文を発表させることで, 最後の振り返り, まとめとする。

5 本時案（本時 第2次 5／5）

主眼 要旨について話し合うことを通して、筆者の意見や内容・要旨がわかり、理由をまとめて自分なりの要旨を書くことができるようにする。

準備 教師作成の短冊カード

学習内容・学習活動	児童の意識の流れ	工夫・配慮事項
<p>1 用語について確認する。（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要旨という用語の意味 	<ul style="list-style-type: none"> ・要旨って、内容や意見を短くまとめて表した言葉のことなんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要旨という用語の意味を理解しレディネスを整えるために、過去の教材「感情」を利用して説明する。
<p>どれが一番、「平和のとりでを築く」の要旨に近いだろうか。</p>		
<p>2 当てはまらない文について話し合う。（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の意見 ・内容の中心 ・段落相互の関係 	<ul style="list-style-type: none"> ・一番当てはまらないのはAだと思う。だって、意見は核兵器廃絶と平和を求めることだから。 ・ぼくはEだと思うな。核兵器のつくり方は内容に関係ないよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師作成の要旨を書いたカードを見せることで、課題を視覚的に共有する。 ・選択の観点を明らかにして話し合うことができるよう、明らかに違う文（AとE）を用意し、初めに話し合うようにする。
<p>3 一番要旨に近い文について話し合う。（20分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題名、①段落との関係 ・筆者の意見 ・内容の中心 ・筆者像 	<ul style="list-style-type: none"> ・近いのはBかな。ほとんど原爆に関する内容だし、⑫に核兵器廃絶の意見があった。 ・Cだと思う。最後は平和のことを言っていたよ。でも、前半の内容が足りないな。 ・題名や①段落は平和を築き、戦争を戒めるだね。Cが近いよ。 ・Dかな。原爆ドームが内容の中心だから。でも、後半が意見の文と違っているな。 ・どれも少し足りない気がするな。自分ならどうやってまとめるかな 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに考えをもたせるために、ペア→一人で考える時間をとる。 ・友だちの考えを共有できるよう、友だちの発言の根拠の段落を探すよう指示する。 ・内容（中の部分）と意見について理解しやすくなるよう、キーワードでまとめる。自分なりのまとめのキーワードとしても使用する。 ・筆者の考えの中心を理解し、意見を収束していくため、題名と①段落に着目するよう促す。 ・原爆を中心に述べた筆者の心情を想像させるため、記者や理事長という筆者の仕事进行を明かす。
<p>4 キーワードを使って自分なりの要旨を書いてまとめる。（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要旨 	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界遺産に登録された原爆ドームを大切に保存し、核廃絶や戦争反対を訴え、平和の心をもたなければいけない」 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを使って要旨を書かせることで、観点がぶれないようする。 （評）核兵器廃絶と戦争反対という内容に触れて要旨をとらえているか。 <p style="text-align: right;">（ノート）</p>

- A = 原爆ドームが世界遺産に登録されたので、世界遺産をもっと増やしていくべきだ。
- B = 世界遺産の原爆ドームを大切に保存し、核兵器は不必要だと警告しなければならない。
- C = 原爆ドームを大切に、戦争に反対して平和を訴えなければならない。
- D = 世界遺産の原爆ドームを、永久に保存し大切にしなければならない。
- E = 戦争の被害や核兵器のつくりかたを知らないといけない。

6 板書計画

<p>※段落の関係に気を付け、中の内容、意見の内容をまとめると要旨になる。</p>	<p>・題名「平和のとりでを築く」</p> <p>・①段落にも「平和を築き、戦争を戒める」</p>	<p>〈内容〉 原爆ドーム・保存・世界遺産</p> <p>〈意見〉 核兵器不必要</p> <p>戦争反対・平和</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">D</div> <p>⑫⑬段落の意見がない</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">C</div> <p>前半は中と合っている</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">B</div> <p>意見が⑫段落のみ</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">E</div> <p>前半の内容は中と合っている</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">A</div> <p>増やすことは書いていない</p>	<p>⑫⑬の意見が書かれてない</p>	<p>⑫⑬の意見が書かれてない</p>	<p>内容と関係がない</p>	<p>ABCDEのどれが一番要旨に合っているだろうか。</p>	<p>平和のとりでを築く</p> <p>大牟田稔</p>	<p>〈要旨〉：内容の中心や意見の中心 短く</p>
---	---	---	---	---	---	--	---	---------------------	---------------------	-----------------	---------------------------------	------------------------------	----------------------------

IV 授業後の考察及び研究協議での提案

本単元は、「誰もが『わかる・できる』国語科授業づくり」をねらいとして行った。そのために特に意識したことは以下の3点である。一つ目は、単元を貫く問いの意識をもたせること。二つ目は、全員が楽しく授業に参加できる課題の工夫をすること。三つ目は、学習のめあてを明確にすることである。

一つ目の「単元を貫く問い意識をもたせること」については、ある程度の成功があったように感じる。一次第1時より、主張を伝わりやすく書くための工夫について考えていくという意識をもつことができていた。しかし、本時のねらいである“要旨の読み取り”との関連性が不明確であった。子どもたちも、これまでの授業内容と要旨の読み取りとのつながりがうまくいかなかった。教師の「要旨を読み取らせたい」という気持ちが前面に出すぎてしまい、子どもの思考の流れに沿っていなかった。単元を貫く言語活動（本単元では、単元を貫く問いの意識）がある授業を計画する際には、事前に児童の思考の流れを予測し、それに合った単元計画を立てる必要がある。

二つ目「全員参加の授業づくり」では、1～2学期繰り返し行ってきた授業づくりが生きたように感じる。課題の提示では、選択肢を用意したことにより、全員が参加しやすい状況をつくることができた。5つの選択肢のうち2つは、明らかに違うと根拠をもって示しやすいものを準備した。「〇〇が～～だから違う」と自信をもって言うことができる。その自信が授業に参加しやすくなる条件でもある。そこで示された根拠が、次の3枚を話し合う際の観点となる。先に観点を示されているので、思考の幅が狭まり、根

抛もなく自由に考えることが減った。そのため、ねらいに迫りやすくなった。しかし、選択肢が多かったために話し合う時間も少なくなってしまった。さらに、自分なりの要旨をまとめる時間も少なくなった。授業を計画する際、時間配分を十分に配慮しなければならなかった。

三つ目「学習のめあてを明確にすること」では、自分なりに要旨をまとめる方法を意識して行った。本時では「要旨のまとめ方をとらえる」ことを一番のねらいとしていた。しかし、本教材の要旨をとらえることはある程度できたように思うが、まとめ方、つまり他の文章で要旨をとらえられる方法については充分ではなかったように感じる。それは、教師のねらいと授業で子どもたちに示した課題が重なっていなかったからであろう。子どもたちが参加しやすいように、選択肢を示して「どれが一番要旨に近いだろうか。」という課題を与えた。子どもたちは、教材文の要旨をとらえ、どれを選択するかということが一番に考えていた。しかし、“わかる”べきは要旨のとらえ方である。子どもたちに要旨のとらえ方を学習するという構えを与えていなかった。故に、要旨をとらえようとはしたが、要旨のまとめ方には注意が向いていなかった。教師がもつねらいと子どもたちのめあてが一致していなかった。授業において、教師のねらいと子どもたちのめあてを一致させておく必要があるようにも感じた。

授業後の研究協議においても、上記と同じ意見があった。また、話し合っって練り上げていく授業は、一朝一夕にはできないという意見もあった。日々の授業の中で、国語科以外の場面で、いかに論点を絞って話し合いを行っていくかという視点をもたなければならなかったと感じた。さらに、「わかる・できる」授業づくりにおいては“そろえる”ことが大切と教わった。それはレディネスであったりまとめ方であったりする。学習を展開し、学習内容を理解するうえで必要なポイントで子どもたちの意識や方法などをそろえていくことである。そうすることで、子どもたちも一つひとつを理解しながら学習を進めていくことができる。授業の中のどこでそのポイントをつくり、如何にそろえさせるかということも授業づくりのヒントとなるだろう。また、“めあて”を子どもたちに示すこと、これは、既習事項の〇〇が使える、という意識を持たせるために必要なのだということ学んだ。見通しをもって学習活動を行うということだ。教師のねらい、子どもたちのめあて、そして取り組む課題が一致していることがとても大切である。

誰もが「わかる・できる」授業づくりを目指し工夫と配慮のある単元を構想した。課題は多くあるが、こうしたことを意識した単元づくり・授業づくりを継続していくことが一番大切である。

V 学校全体の取組の概要

本校の研修テーマは「誰もがわかる・できる授業の創造」である。その授業づくりの一環として、国語科におけるわかる・できる授業を目指している。そのために、次のような取り組みを行った。

- ・わかる・できる授業を意識した校内研修
- ・校外研修の復伝
- ・国語科授業づくりのポイントの研修
- ・国語科のカリキュラムづくり

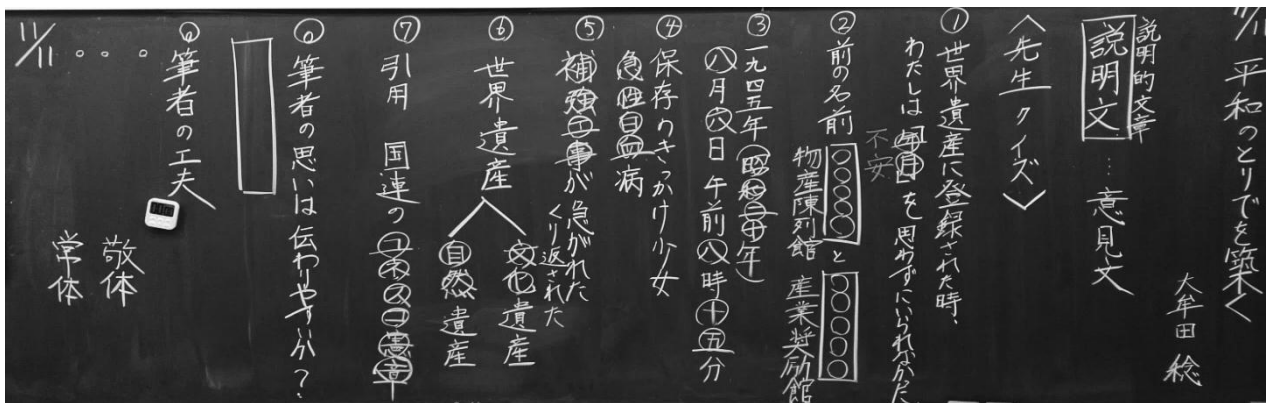
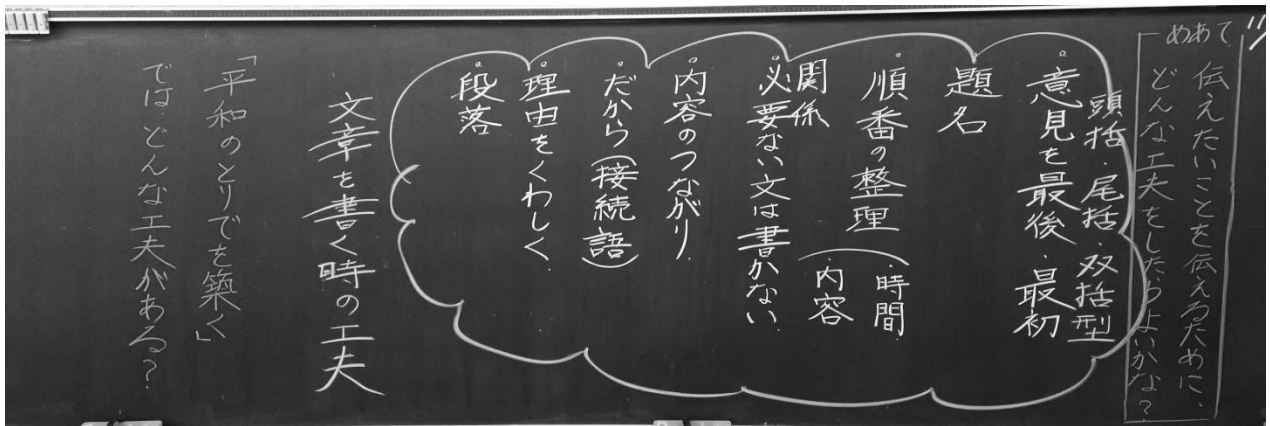
- ・国語科の学習内容（読むことに関する）一覧の配付
- ・学習内容を明確にするための教科書と学習指導要領を用意しての研修会 等

特に教科書と学習指導要領を用いた授業づくりの研修では、学習内容を明確にするという目的をもって行った。学習内容が曖昧といわれる国語科においては、学習内容をいかに明確化するかということが非常に大切である。こうした研究をしっかりと行い、授業をつくる教師が学習内容をしっかりと明確にしておく必要がある。本校では、特にその部分に力を注いでいる。

VI おわりに

活用力の向上を意識して行った本単元であるが、単元構成について不十分な点があり、子どもたちの思考がうまく流れていかなかった。また、学習のねらいを明確にしたつもりではあるが、子どもたちの振り返りの中では明確になっていなかった。日々の授業の中で、単元構成を工夫し学習のねらいを明確にしていくことをめざさなければならない。そのことが、誰もがわかる・できる授業づくり及び活用力の向上につながると思う。

VII 参考資料



平和のとりでを築く

筆者の一番伝えたいことは、どこにどのよう書いてある？

伝えたいこと ↓ 工夫

- ① 原爆ドーム 平和を築き戦争を止まそう
- ② ユネスコの世界遺産
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪
- ⑫ 原爆が人間や都市にどんな被害をもたらすか
- ⑬ 核兵器を一度使えばいけない、不必要
- ⑭ 国連のユネスコ憲章

尾括型 ？ 永久保存 核兵器不要 平和のとりで

双括型 伝えたいこと!!

11月17日(月) 巨儀くん

平和のとりでを築く 大卒日絵

筆者の一番伝えたいことは、どこにどのよう書いてある？

原爆ドーム = 物産陳列館 = 産業奨励館

前の名前 本当の名前

核兵器は不必要

世界の人人々に警告する

建物

かっこ悪い ↓ 印象に残る

印象に残る ↓ 建物は何度も使っている

強調している

特別感

意見が伝わりやすい

世界の遺産

世界の人人々々

世界遺産

文化遺産

ユネスコが指定

未来に引き継ぐ

1/18 平和のとりでを築く 大卒日絵

筆者の一番伝えたいことは、どこにどのよう書いてある？

⑩ 段落は 必要だったのだろうか？

⑨ 段落 世界遺産の仲間入り

⑧ 段落 世界遺産の説明

⑦ 段落 人間の歴史に大きな役割

⑥ 戦争の被害 規模が小さい 歴史も浅い

⑤ 規程が小さい 知られぬだろっか？

④ 不安

③ 意見

世界の人人々々

世界の遺産

世界遺産

ユネスコが指定

未来に引き継ぐ

※ 第1次第1時で配布した教師作成資料

「広島は都会だ」

修学旅行で平和記念公園に行った。資料館の中は、原子爆弾についてたくさんの説明があった。平和記念公園は広くてびっくりした。原子爆弾はとても強い爆弾で恐ろしいものだ。だから、核兵器はいらないと思う。資料館の中は、原子爆弾が落とされたときの広島の写真や焼け残ったものが展示してあった。公園の中には千羽鶴を捧げる「貞子の像」があった。帰る前に千羽鶴を捧げて、お祈りをした。戦争はいけないなと思った。資料館に入ったら班の人と一緒に見て回った。パンフレットで見た黒い弁当箱を見て悲しくなった。家を出発する前には、おうちの人から戦争のことについて話を聞いた。悲しい出来事ばかりだったけど、涙は出なかった。悲しいのに涙が出ないなんて不思議だ。広島は、とても大きくて都会だったので、広島に住みたいと思った。